

第 51 回日本アルコール・アディクション医学会学術総会

【プログラム】

平成28年10月7日(金) 第1会場(大ホール)

9:20~11:20 会長企画シンポジウム PRS

依存症対策の現状～ハーム・リダクション導入を考える

座長：高田孝二（帝京大学文学部心理学科）
鈴木 勉（星薬科大学薬物依存研究室）

PRS-1 厚生労働省の依存症対策の現状

朝倉崇文

厚生労働省 障害保健福祉部 精神・障害保健課/北里大学精神科教室/北里大学大学院医療研究科

PRS-2 薬物乱用とハーム・リダクション—歴史とメサドン療法—

和田 清

埼玉県立精神医療センター 依存症治療研究部

PRS-3 ハーム・リダクションの考え方～臨床現場からの報告～

成瀬暢也

埼玉県立精神医療センター

PRS-4 嗜癮性障害

佐藤 拓

成瀬メンタルクリニック

PRS-5 指定討論

鈴木 勉

星薬科大学薬物依存研究室

11:50~12:20 柳田賞記念講演

座長：池田和隆（東京都医学総合研究所・依存性薬物プロジェクト）

柳田賞記念講演

喫煙と動脈硬化性疾患—さまざまな観点からの検討—

中村幸志

北海道大学大学院医学研究科社会医学講座公衆衛生学分野

13:40~16:10 スポンサーシップシンポジウム 1 SPS1

アルコール依存症の診断と治療ゴールの変化をめぐって

座長：齋藤利和（医療法人北仁会幹メンタルクリニック）
樋口 進（独立行政法人国立病院機構久里浜医療センター）

SPS1-1 アルコール依存症に対する厚生労働省の取り組み

朝倉崇文
厚生労働省 障害保健福祉部 精神・障害保健課/北里大学精神科教室/北里大学大学院医療研究科

SPS1-2 DSM-5 における診断の変化と治療ゴール（飲酒量低減、断酒）の選択

宮田久嗣
東京慈恵会医科大学 精神医学講座

SPS1-3 治療のアルゴリズムとその基本的運用ルール

松下幸生
国立病院機構久里浜医療センター

SPS1-4 合併症とその対応

堀江義則
山王メディカルセンター 内科

SPS1-5 早期介入のための医療連携

杠 岳文
国立病院機構肥前精神医療センター

SPS1-6 指定発言

堀井茂男
（公財）慈圭病院

SPS1-7 指定発言

成瀬暢也
埼玉県立精神医療センター

共催：大塚製薬株式会社、ルンドベックジャパン株式会社

16:20～18:00 柳田知司先生メモリアルシンポジウム：先生を偲んで

座長：高田孝二（帝京大学文学部心理学科）

柳田先生のご足跡

高田孝二

帝京大学文学部心理学科

基礎研究者の立場から

鈴木 勉

星薬科大学薬物依存研究室

臨床医の立場から

加藤 信

かとうメンタルクリニック

国際的活動

Jack E. Henningfield

Pinney Associates, and The Johns Hopkins University School of Medicine

平成 28 年 10 月 7 日 (金) 第 2 会場 (瑞雲)

9:20~11:20 シンポジウム 1 S1

アジアにおけるハーム・リダクションの現状と課題～タイ、台湾、日本の実情と基礎から臨床への発展に向けて～

座長：齋藤利和 (Department of Psychiatry, Miki Mental Clinic)
田中増郎 (Koryo Hospital)

S1-1 Harm reduction approach for alcohol related problem in Japan
長 徹二
Mental Care Center, Prefecture of Mie (日本)

S1-2 Anti-alcohol campaign during 3-month lent in Thailand
Woraphat Ratta-apha
Department of Psychiatry, Faculty of Medicine Siriraj Hospital, Mahidol University (タイランド)

S1-3 Prevention policy and public health of Problematic Internet use in Japan
白坂知彦
Department psychiatry, Teine Kejikai Hospital (日本)

S1-4 The Trend of Drug Addiction and Harm Reduction Treatment in Taiwan
Chia-chun Hung
Bali Psychiatric Center, Ministry of Health and Welfare (台湾)

S1-5 Nicotinic acetylcholine receptor as a target of harm reduction and treatment in addiction
溝口博之
Research Center for Next-Generation Drug Development, Research Institute of Environmental Medicine, Nagoya University (日本)

13:40~15:40 シンポジウム 2 S2

アルコール依存症の非自発的入院治療を考える

座長：三ツ汐洋 (ちひろメンタルクリニック)
麻生克郎 (公益財団法人復光会垂水病院)

S2-1 遷延性退薬徴候の治療を主眼とした精神科病棟での治療
小宮山徳太郎
社会医療法人栗山会飯田病院

S2-2 アルコール依存症治療で非自発的入院を考慮する状況とは？
堀 達
医療法人社団碧水会長谷川病院

S2-3 アルコール依存症の非自発性入院について考える

中田千尋

公益財団法人井之頭病院

S2-4 アルコール依存症の非自発的入院診療を考える

白坂知信

特定医療法人北仁会石橋病院

16:20~18:20 シンポジウム 3 S3**薬物依存症に対する心理療法の現状**

座長：松本俊彦（国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所 薬物依存研究部）

森田展彰（筑波大学医学医療系ヒューマンケア科学専攻社会精神保健学）

S3-1 薬物依存症に対する短期介入治療

合川勇三

埼玉県立精神医療センター

S3-2 薬物使用障害患者に対する SMARPP の効果：終了 1 年後の転帰に影響する要因の検討

松本俊彦

国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所 薬物依存研究部

S3-3 薬物依存症外来治療プログラム STEM の有効性評価

近藤あゆみ

国立研究開発法人 国立精神・神経医療研究センター

平成 28 年 10 月 7 日（金） 第 3 会場（平安）**9:20~11:20 シンポジウム 4 S4****嗜好品の効果を科学する**

座長：廣中直行（LSI メディエンス）

宮田久嗣（東京慈恵会医科大学 精神医学講座）

S4-1 嗜好品研究の視点：生物・心理・社会

廣中直行

LSI メディエンス

S4-2 依存症の神経科学的アプローチから嗜好品の効果研究へ

高野裕治

同志社大学

S4-3 嗜好品摂取によって得られる心理学的効果を説明するメカニズム：薬理、認知、…

横光健吾

たばこ総合研究センター

S4-4 利用場面から検討する嗜好品の意義

澤井大樹

イデアラボ

13:40~15:40 シンポジウム 5 S5**薬物依存の病態解明・新規治療法の開発：若手研究者シンポジウム**

座長：橋本謙二（千葉大学）

新田淳美（富山大学）

S5-1 覚せい剤離脱症状における BDNF-TrkB シグナルの役割

任 乾

千葉大学

S5-2 ドーパミンにより制御される中型有棘細胞のリン酸化シグナル

永井 拓

名古屋大学

S5-3 薬物依存抑制分子 Shati/Nat8l および Tmem168 の機能解析

宮本嘉明

富山大学

S5-4 ドーパミン欠乏マウスにおける異常行動の脳内メカニズム

藤田雅代

東京都医学総合研究所

16:20~18:20 シンポジウム 6 S6**ポスト「危険ドラッグ」―薬物乱用状況はどう変わったか―**

座長：和田 清（埼玉県立精神医療センター）

成瀬暢也（埼玉県立精神医療センター）

S6-1 「危険ドラッグ」の猛威とその顛末

和田 清

埼玉県立精神医療センター

S6-2 そして危険ドラッグを使う人はいなくなった：全国住民調査 2015 年の結果より

嶋根卓也

国立精神・神経医療研究センター

S6-3 危険ドラッグの流通はどう変わったか

花尻瑠理

国立医薬品食品衛生研究所

S6-4 回復支援施設における危険ドラッグ依存者の実際

栗坪千明

栃木ダルク

- S6-5** 埼玉県立精神医療センターを受診した危険ドラッグ患者の動向
合川勇三
埼玉県立精神医療センター

平成28年10月7日(金) 第4会場(福寿)

9:20~11:20 シンポジウム7 S7

アルコール・薬物と交通事故

座長：藤宮龍也（山口大学大学院医学系研究科法医学講座）
一杉正仁（滋賀医大法医学）

- S7-1** アルコールと交通事故
一杉正仁
滋賀医大法医学

- S7-2** 違法薬物・医薬品使用の自動車運転への影響推定
岡村和子
科学警察研究所交通科学部

- S7-3** アルコール濃度推定法の問題点とその対策について
長谷場健
日本医科大学法医学、神奈川歯科大学法医学

- S7-4** アルコール鑑定と吸収動態
藤宮龍也
山口大法医学

13:40~15:40 シンポジウム8 S8

アルコール健康障害基本法施行で変わる私たちの生活

座長：神田秀幸（島根大学環境保健医学）
吉本 尚（筑波大学地域医療学）

- S8-1** アルコール健康障害対策基本法について
岩原千絵
厚生労働省健康課

- S8-2** アルコール健康障害対策基本法について
真榮里仁
久里浜医療センター

- S8-3** アルコール健康障害基本法施行で変わるプライマリケアの現場
吉本 尚
筑波大学地域医療学

- S8-4** **アルコール健康障害対策の取り組み 鳥取県を例に**
尾崎米厚
鳥取大学環境予防医学

- S8-5** **地域でとりくむアルコール健康障害対策**
梅澤光政
獨協医科大学公衆衛生学

平成 28 年 10 月 7 日 (金) 第 5 会場 (401)

9:20~10:20 一般演題 (口演) 1 O-1

内科領域・代謝

座長：土島 睦 (金沢医科大学)
白石光一 (東海大学医学部消化器内科)

- O-1-1** **血管内皮細胞依存性弛緩反応に及ぼす慢性アルコールの影響**
勇井克也、工藤利彩、羽竹勝彦、長谷場健
奈良県立医科大学法医学教室

- O-1-2** **危険ドラッグ蔓延防止に向けた岐阜県における取り組み：合成カンナビノイド代謝物の同定と異性体の構造識別**
伊藤哲朗¹⁾、古川諒一²⁾、神山恵理奈¹⁾、川島英頌²⁾、曾田 翠²⁾、筑本貴郎¹⁾、多田裕之¹⁾、
船田正彦³⁾、北市清幸²⁾
1) 岐阜県保健環境研究所 生活科学部
2) 岐阜薬科大学 薬学部 薬物動態学研究室
3) 国立研究開発法人 国立精神・神経医療研究センター 精神保健研究所 薬物依存研究部

- O-1-3** **当院内科外来における非肝疾患患者の飲酒量・喫煙習慣と肝線維化進展度予測**
藤井英樹、山口誓子、倉井 修
大阪市立十三市民病院 消化器内科

- O-1-4** **アルコール性肝硬変症例の静脈瘤治療後再発における血清ナトリウム値の意義**
三浦匡央、内山 明、高田勇登、泉健太郎、伊藤智康、青山友則、今 一義、山科俊平、
池嶋健一、渡辺純夫
順天堂大学 消化器内科

10:20~11:20 一般演題 (口演) 2 O-2

薬物動態・薬理学的治療

座長：池田和隆（東京都医学総合研究所・依存性薬物プロジェクト）
岸岡史郎（和歌山県立医科大学 医学部 薬理学教室）

- O-2-1** 血中アルコール濃度を一定に保った状態でのアセトアルデヒド濃度と心拍数の関係
原 幸子、松下幸生、遠山朋海、小山真由美、小竹三津子、塚原みのり、樋口 進
久里浜医療センター

- O-2-2** Topiramate は山型飲酒を遷延化させる？—アルコール依存症薬物療法の明暗—
水野貴史¹⁾、和気浩三¹⁾、川野 涼²⁾、森川陽一²⁾、和気隆三¹⁾、米田 博²⁾
1) 医療法人和気会 新生会病院
2) 大阪医科大学神経精神医学教室

- O-2-3** クルクミンは CCL2 発現抑制を介してメタンフェタミン精神依存形成を減弱させる
雑賀史浩、木口倫一、松崎伸介、岸岡史郎
和歌山県立医科大学医学部薬理学教室

- O-2-4** High km アルコール脱水素酵素 ADH3 のアルコール摂取量ならびにアルコール性肝障害
発症における役割
長谷場健^{1,3)}、丸山基世²⁾、秋元敏雄²⁾、成尾宗浩¹⁾、奥田貴久¹⁾
1) 日本医科大学法医学
2) 日本医科大学実験動物管理学
3) 神奈川歯科大学法医学

13:40~14:40 一般演題 (口演) 3 O-3

心理・治療

座長：後藤 恵（成増厚生病院）
橋本 隆（医療法人社団信和会高嶺病院）

- O-3-1** 薬物依存症者をもつ家族を対象とした心理教育プログラムの理解度と有用性
近藤あゆみ¹⁾、高橋郁絵²⁾、森田展彰³⁾
1) 国立精神・神経医療研究センター 精神保健研究所 薬物依存研究部
2) 原宿カウンセリングセンター
3) 筑波大学大学院人間総合科学研究科

- O-3-2** 依存症専門病棟における活動集団療法（通称：木曜会）の試み—（1）自発的継続参加者の心理的特性について—
板橋登子¹⁾、堀内恵美子¹⁾、中村久美子¹⁾、堀 幸子¹⁾、井上恭子¹⁾、早坂 透²⁾、黒澤文貴¹⁾、
小林桜児¹⁾
1) 神奈川県立精神医療センター
2) 福島県障がい者総合福祉センター

0-3-3 依存症専門病棟における活動集団療法（通称：木曜会）の試み—（2）継続参加者の変化と治療的意義中里容子¹⁾、板橋登子¹⁾、瀬底正有¹⁾、早坂 透²⁾

- 1) 神奈川県立精神医療センター
- 2) 福島県障がい者総合福祉センター

0-3-4 アルコール依存症入院患者の退院後再飲酒と関連する要因：潜在的態度測定による予後予測大谷保和¹⁾、合川勇三³⁾、湯本洋介¹⁾、梅野 充⁵⁾、榊原 聡⁶⁾、門脇亜理紗⁶⁾、斎藤 環¹⁾、森田展彰¹⁾、池田和隆²⁾

- 1) 筑波大学医学医療系
- 2) 東京都医学総合研究所 依存性薬物プロジェクト
- 3) 埼玉県立医療センター 精神科
- 4) 久里浜医療センター 精神科
- 5) 東京都立多摩総合精神保健福祉センター
- 6) 東京都立松沢病院 精神科

14:40～15:40 一般演題（口演）4 O-4

外来治療

座長：尾崎 茂（公益財団法人東京都保健医療公社豊島病院精神科）
 鈴木 裕（日本大学医学部内科学系総合内科・総合診療医学分野）

0-4-1 依存症専門外来における外来 SCOP の取り組みについて（2）質問紙による効果測定板橋登子¹⁾、中里容子¹⁾、瀬底正有¹⁾、早坂 透²⁾

- 1) 神奈川県立精神医療センター
- 2) 福島県障がい者総合福祉センター

0-4-2 依存症専門外来における外来 SCOP の取り組み（1）—プログラムの開発と構造—堀内恵美子¹⁾、中村久美子¹⁾、堀 幸子¹⁾、板橋登子¹⁾、井上恭子¹⁾、早坂 透²⁾、黒澤文貴¹⁾、小林桜児¹⁾

- 1) 地方独立行政法人神奈川県立病院機構 神奈川県立精神医療センター
- 2) 福島県障がい者総合福祉センター

0-4-3 依存症外来における外来 SCOP の取り組み（3）—自助グループへ繋がった事例—中村久美子¹⁾、堀内恵美子¹⁾、堀 幸子¹⁾、板橋塔子¹⁾、井上恭子¹⁾、早坂 透²⁾、黒澤文貴¹⁾、小林桜児¹⁾

- 1) 地方独立行政法人神奈川県立病院機構 神奈川県立精神医療センター
- 2) 福島県障がい者総合福祉センター

0-4-4 依存症専門外来における外来 SCOP の取り組み（4）— 一事例からの考察—堀 幸子¹⁾、堀内恵美子¹⁾、中村久美子¹⁾、板橋登子¹⁾、井上恭子¹⁾、早坂 透²⁾、黒澤文貴¹⁾、小林桜児¹⁾

- 1) 地方独立行政法人神奈川県立病院機構 神奈川県立精神医療センター
- 2) 福島県障がい者総合福祉センター

0-4-5 依存症専門外来における外来 SCOP の取り組み（5）— 症例からの考察—井上恭子¹⁾、中村久美子¹⁾、堀内恵美子¹⁾、堀 幸子¹⁾、板橋登子¹⁾、早坂 透²⁾、黒澤文貴¹⁾、小林桜児¹⁾

- 1) 地方独立行政法人神奈川県立病院機構 神奈川県立精神医療センター
- 2) 福島県障がい者総合福祉センター

16:20~18:20 シンポジウム 9 S9

オピオイドの適正使用の先にある新戦略

座長：森 友久（星薬科大学）
上園保仁（国立がんセンター）

S9-1 処方性オピオイド鎮痛薬の不適切使用の能動的側面と適正使用のための戦略

山口重樹
獨協医科大学 麻酔科

S9-2 オピオイド鎮痛薬による精神依存形成の神経ネットワーク—オレキシン神経による修飾機構—

南雲康行
筑波大学 国際統合睡眠医科学研究機構

S9-3 がん疼痛治療におけるオピオイドの潮流～量から質の時代へ～

余宮きのみ
埼玉県立がんセンター

S9-4 オピオイド除痛による抗腫瘍効果を科学する

成田 年
星薬科大学

平成 28 年 10 月 7 日（金） 第 6 会場（蓬莱）

9:20~11:20 シンポジウム 10 S10

アルコール・薬物依存症の細胞薬理学～ドパミン神経変容の展望

座長：葛巻直子（星薬科大学）
疋田貴俊（京都大学・医学研究科）

S10-1 ドパミンによる大脳基底核神経回路の制御機構

疋田貴俊
京都大学・医学研究科

S10-2 アルコール慢性処置による中脳辺縁領域における mTOR 活性変動の役割

芝崎真裕
星薬科大学薬理学

S10-3 脳内自己刺激法を用いた薬物依存性解析および報酬系神経回路の解析

井手聡一郎
東京都医学総合研究所 依存性薬物プロジェクト

S10-4 内側前頭前皮質のドパミン受容体サブタイプによるストレス抵抗性増強と神経回路リモデリング

篠原亮太

神戸大学大学院医学研究科・医学部 薬理学分野

13:40~15:40 シンポジウム 11 S11**現場でのハーム・リダクションの実際～治療現場の現実、特に震災関連～**

座長：射場亜希子（兵庫県立光風病院）

田中増郎（高嶺病院）

S11-1 被災地アルコール問題へのからころ的取り組み

高柳伸康

からころステーション

S11-2 被災地支援活動とハーム・リダクション～『底つき』から『底あげ』へ～

奥平富貴子

東北会病院

S11-3 被災地支援で学んだこととそこから考えたこと

長 徹二

三重県立こころの医療センター

S11-4 震災関連におけるハーム・リダクション

福田貴博

琉球病院

S11-5 指定発言者

廣中直行

LSI メディエンス

16:20~18:20 シンポジウム 12 S12**アルコール依存症の精神科**

座長：齋藤利和（幹メンタルクリニック）

宮田久嗣（東京慈恵会医科大学 精神医学講座）

S12-1 アルコール依存症の精神科併存疾患の臨床的意義：概説

宮田久嗣

東京慈恵会医科大学 精神医学講座

S12-2 アルコール依存症の入院患者に併存する注意欠如多動症

田中増郎

高嶺病院

S12-3 アルコール依存症を併存するうつ病の抑うつ症状の変化と Acamprosate の有効性に関する検討

田山真矢

幹メンタルクリニック

S12-4 アルコール依存症の治療予後と回復

松下幸生

久里浜医療センター

平成28年10月7日(金) 第7会場(研修室)

9:30~12:00 ワークショップ1 WS1

ギャンブル障害の当事者や家族に対する心理教育・心理療法

座長：森田展彰（筑波大学医学医療系ヒューマンケア科学専攻社会精神保健学）

司会：蒲生裕司（こころのホスピタル町田）

WS1-1 ファシリテーター1

新井清美

首都大学東京 健康福祉学部看護学科

WS1-2 ファシリテーター2

田中紀子

一般社団法人ギャンブル依存症問題を考える会

WS1-3 ファシリテーター3

当事者・ご家族の方々

13:00~14:00 教育講演4 EL4

エビデンスに基づいた依存症・アディクション治療

座長：青山久美（横浜市立大学）

EL4 エビデンスに基づいた依存症・アディクション治療

原田隆之

目白大学

14:00～15:00 教育講演 5 EL5

児童思春期とアディクション

座長：小林桜児（神奈川県立精神医療センター）

EL5 児童思春期とアディクション

青山久美

横浜市立大学附属病院児童精神科

15:00～16:00 教育講演 6 EL6

信頼障害としての依存症

座長：垣渕洋一（成増厚生病院）

EL6 信頼障害としての依存症

小林桜児

神奈川県立精神医療センター・専門医療部

16:00～17:00 教育講演 7 EL7

アルコール依存症の地域連携

座長：鈴木勝幸（埼玉県立精神医療センター）

EL7 アルコール依存症の地域連携～基本法を踏まえて今できること、行うべきこと

垣渕洋一^{1,2)}

- 1) 成増厚生病院・東京アルコール医療総合センター
- 2) アルコール健康障害対策基本法推進ネットワーク

17:00～18:00 教育講演 8 EL8

やさしいアディクションの脳科学

座長：長 徹二（三重県立こころの医療センター）

EL8 やさしいアディクションの脳科学

廣中直行

LSI メディエンス 薬理研究部 研究員

平成28年10月7日(金) 第8会場(桃源)

9:30~10:30 教育講演 1 EL1

アルコール依存症総論

座長：澤山 透（北里大学）

EL1 アルコール依存症総論

松下幸生

独立行政法人国立病院機構久里浜医療センター

10:30~11:30 教育講演 2 EL2

アルコール依存症治療総論～久里浜方式からハーム・リダクションまで～

座長：真栄里仁（久里浜医療センター）

EL2 アルコール依存症治療総論～久里浜方式からハーム・リダクションまで～

澤山 透

北里大学医学部精神科学

11:30~12:30 教育講演 3 EL3

依存症・アディクション患者へのかかわり方

座長：神前まい子（埼玉県立精神保健福祉センター）

EL3 依存症・アディクション患者へのかかわり方

成瀬暢也

埼玉県立精神医療センター

13:00~15:30 ワークショップ 2 WS2

オープンダイアログと依存症

司会・指定討論者：森田展彰（筑波大学医学医療系ヒューマンケア科学専攻
社会精神保健学）

WS2 講師

齋藤 環

筑波大学

15:30~18:00 ワークショップ 3 WS3

動機づけ面接法～基礎知識から臨床へ～

WS3 動機づけ面接法：基礎知識から臨床へ
コーディネーター・講師

後藤 恵
成増厚生病院

ファシリテーター

平成 28 年 10 月 7 日（金） ポスター会場（大ホールロビー）

16:30~17:00 一般演題（ポスター）1 P-1

行動薬理

座長：金田勝幸（金沢大学医薬保健研究域薬学系 薬理学研究）

P-1-1 カルシトニン遺伝子関連ペプチド（CGRP）による神経性弛緩反応に及ぼす慢性エタノールの影響

工藤利彩、勇井克也、羽竹勝彦
奈良県立医科大学法医学

P-1-2 アルコール摂取ラット 8 代目における認知機能の検討

河越尚幸、瓜田純久、今井常彦、貴島 祥、田中英樹、佐々木陽典、前田 正、
石井孝政、財 裕明、中嶋 均
東邦大学総合診療・救急医学講座

P-1-3 フェンシクリジン連続投与による精神行動異常におけるニコチン性アセチルコリン受容体サブユニットの関与

後藤咲香¹⁾、山田将玖郎¹⁾、吉見 陽¹⁾、肥田裕丈¹⁾、北垣伸治²⁾、久島 周³⁾、尾崎紀夫³⁾、
野田幸裕¹⁾

- 1) 名城大学薬学部・大学院薬学研究科 病態解析学 I
- 2) 名城大学薬学部・大学院薬学研究科 薬化学研究室
- 3) 名古屋大学大学院医学系研究科 精神医学講座

P-1-4 注意欠如/多動性障害モデルマウスにおけるメチルフェニデートの報酬効果

池窪結子¹⁾、井手聡一郎¹⁾、高松幸雄¹⁾、Taishi-Clark Takeda²⁾、Sarah Nagasawa²⁾、
Jennifer Hua²⁾、George R. Uhl²⁾、曾良一郎³⁾、池田和隆¹⁾

- 1) 東京都医学総合研究所 依存性薬物プロジェクト
- 2) New Mexico VA Healthcare System
- 3) 神戸大学大学院医学研究科・精神医学分野

17:00~17:30 一般演題 (ポスター) 2 P-2

症候・治療・社会

座長：白坂知彦（手稲溪仁会病院）

P-2-1 プレアルコールに対する節酒指導

米沢 宏
慈友クリニック

P-2-2 断酒に導くための節酒指導は許されるか

米沢 宏
慈友クリニック

P-2-3 アルコール依存症者における自殺念慮・自殺未遂経験

伊藤 満、米本朋子、上野文彦、岩原千絵、中山秀紀、真榮里仁、木村 充、松下幸生、樋口 進
国立病院機構久里浜医療センター

P-2-4 大石クリニックにおける性依存症患者の特徴と通院継続率

菅野真由香、長縄瑛子、朝倉 芳、玉榮伸康、澤口彩映香、大石裕代、大石雅之
大石クリニック

P-2-5 大学生における病的ギャンブリング症状の潜在構造：taxometric analysis を用いて

横光健吾¹⁾、田山 淳²⁾、高田琢弘³⁾、甲田宗良⁴⁾、金澤潤一郎⁵⁾、国里愛彦⁶⁾、高橋高人⁷⁾、高橋 史⁸⁾、古川洋和⁹⁾、松岡紘史⁵⁾

- 1) 公益財団法人たばこ総合研究センター
- 2) 長崎大学
- 3) 筑波大学
- 4) 琉球大学
- 5) 北海道医療大学
- 6) 専修大学
- 7) 宮崎大学
- 8) 信州大学
- 9) 鳴門教育大学

17:30~18:00 一般演題 (ポスター) 3 P-3

10
月
7
日
(金)

疫学研究

座長：高田孝二（帝京大学文学部心理学科）

P-3-1 Binge drinking と外傷との関連～日本の大学生・大学院生における多施設横断調査斎藤 剛¹⁾、吉本 尚²⁾、高屋敷明由美²⁾、竹村洋典³⁾

- 1) 筑波大学附属病院 総合診療グループ
- 2) 筑波大学医学医療系 地域医療教育学
- 3) 三重大学大学院医学系研究科 家庭医療学

P-3-2 日本のプライマリケアにおけるアルコール問題の頻度高橋聡子¹⁾、吉本 尚²⁾、高屋敷明由美²⁾

- 1) 筑波大学附属病院 総合診療グループ
- 2) 筑波大学医学医療系 地域医療教育学

P-3-3 An observational cohort study in Japan to assess the patterns of product use and population-level differences in clinical risk endpoints between IQOS and combustible cigarette smokers

G. Baker, A. Gonzalez Zuloeta, M. Benzimra, J.F. Vallerian, L. Sandalic, P. Picavet, G. de la Bourdonnaye, F. Lüdicke

Philip Morris Products S.A., Neuchâtel, Switzerland

P-3-4 学校職員におけるインターネット依存と不眠状態の関連津村秀樹¹⁾、神田秀幸¹⁾、菅谷 渚²⁾、坪井 聡³⁾、高橋謙造⁴⁾

- 1) 島根大学医学部環境保健医学講座
- 2) 横浜市立大学医学部社会予防医学教室
- 3) 自治医科大学地域医療学センター公衆衛生学部門
- 4) 帝京大学大学院公衆衛生学研究科

P-3-5 喫煙者における飲酒習慣と下肢動脈狭窄との関連：篠山研究久保田芳美¹⁾、東山 綾²⁾、丸茂幹雄¹⁾、小西雅美³⁾、山下好子³⁾、岡村智教⁴⁾、宮本恵宏²⁾、若林一郎¹⁾

- 1) 兵庫医科大学環境予防医学
- 2) 国立循環器病研究センター予防医学・疫学情報部
- 3) 篠山市保健福祉部健康課
- 4) 慶應義塾大学医学部衛生学公衆衛生学

平成 28 年 10 月 8 日 (土) 第 1 会場 (大ホール)

9:40~10:40 理事長講演 PRL

座長：高田孝二（帝京大学文学部心理学科）

PRL アルコール依存症の診断治療の変遷

齋藤利和

幹メンタルクリニック

10:40~11:40 特別講演 PL

座長：齋藤利和（医療法人北仁会幹メンタルクリニック）

PL 自殺予防の実践と課題

河西千秋^{1,2)}

1) 札幌医科大学医学部神経精神医学講座

2) International Association for Suicide Prevention（日本代表）

13:00~15:00 特別企画シンポジウム SS

人はなぜ依存症になるのか？ どうすれば回復できるのか？

座長：成瀬暢也（埼玉県立精神医療センター）

岡崎直人（さいたま市こころの健康センター）

SS-1 ヒトはなぜ依存症になるのか？ どうすれば回復できるのか？：脳科学的観点から

宮田久嗣

東京慈恵会医科大学 精神医学講座

SS-2 人はなぜ依存症になるのか？

松本俊彦

国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所 薬物依存研究部

SS-3 人はなぜ依存症になるのか？ どうすれば回復するのか？

水澤都加佐

Healing & Recovery Institute

SS-4 指定発言

大槻 元

全日本断酒連盟

SS-5 指定発言

近藤恒夫

日本ダルク

平成 28 年 10 月 8 日 (土) 第 2 会場 (瑞雲)

9:40~11:40 シンポジウム 13 S13

ハーム・リダクションー正しい導入のためにー

座長：高瀬幸次郎 (県立総合医療センター)
菅沼直樹 (刈谷病院)

S13-1 専門医療機関の立場から

武藤岳史
国立病院機構・肥前精神医療センター

S13-2 社会システムと社会意識への対応ーSBIRTS の普及をめざしてー

猪野亜朗
かすみがうらクリニック

S13-3 嗜癮物質への早期暴露や摂取量、嗜癮罹病期間による脳の影響

鶴身孝介
京都大学医学部脳病態生理学講座 (精神医学)

S13-4 支援の切れ目からこぼれ落ちることを防ぐハーム・リダクション：回復支援のパラダイム転換と SBIRTS の普及

稗田里香
東海大学健康科学部

S13-5 プライマリケアの現場におけるハーム・リダクション

吉本 尚
筑波大学付属病院総合診療科

S13-6 産業保健の理論に則った職域におけるハーム・リダクション導入の考察と実践例の提案

田中 完
新日鐵住金 (株) 鹿島製鐵所 安全環境防災部 安全健康室

13:00~15:00 スポンサーダシンポジウム 2 SPS2

たばこハーム・リダクション

座長：Jack E. Henningfield (Pinney Associates, and Department of Psychiatry and Human Services, The Johns Hopkins University School of Medicine)
大谷吉生 (金沢大学理工研究域自然システム学系化学工学コース)

SPS2-1 Overview of Tobacco Harm Reduction : Past, Present, and Future

Jack E. Henningfield
Pinney Associates, and Department of Psychiatry and Human Services, The Johns Hopkins University School of Medicine

SPS2-2 The role of heat-not-burn products in tobacco harm reduction approach based on the example of IQOS in Japan.

Frank Lüdicke

Philip Morris International

SPS2-3 The potential role of e-cigarettes in tobacco harm reduction

Chris Proctor

Research and Development, British American Tobacco

SPS2-4 指定討論

大谷吉生

金沢大学理工研究域自然システム学系化学工学コース

SPS2-5 指定討論

廣中直行

LSI メディエンス

共催：フィリップモリスインターナショナル ジャパン株式会社、
ブリティッシュ・アメリカン・タバコ・ジャパン合同会社**15:10~17:10 シンポジウム 14 S14****処方薬依存の実態と作用機序**

座長：山田清文（名古屋大学医学部附属病院薬理学）

曽良一朗（神戸大学大学院医学研究科神経科学分野）

S14-1 内因性カンナビノイドによるシナプス伝達調節のメカニズム

狩野方伸

東京大学大学院医学系研究科神経生理学分野

S14-2 ケタミンの乱用と新規抗うつ薬としての可能性

橋本謙二

千葉大学 社会精神保健教育研究センター 病態解析研究部門

S14-3 米国における処方箋オピオイド鎮痛薬の不適切使用における 2 つの側面

山口重樹

獨協医科大学 麻酔科学教室

S14-4 監察医務院からみた致死薬物の実態

福永龍繁

東京都監察医務院

S14-5 指定討論者

鈴木 勉

星薬科大学薬物依存研究室

平成 28 年 10 月 8 日 (土) 第 3 会場 (平安)

9:40~11:40 シンポジウム 15 S15

総合病院におけるアルコール連携医療～その実践と理論的整理～

座長：小松知己（沖縄協同病院）
白坂知彦（手稲溪仁会病院）

S15-1 より良い病病連携を目指して
和気浩三
新生会病院

S15-2 沖縄における総合病院での早期介入の実践
福田貴博
国立琉球病院

S15-3 総合病院における連携医療の実践と理論的整理
小松知己
沖縄協同病院

S15-4 総合病院におけるアルコール依存症治療とスタッフに対する意識調査
白坂知彦
手稲溪仁会病院

13:00~15:00 シンポジウム 16 S16

アルコール使用障害ならびに依存症診療における一般総合病院、内科・精神科診療所間での地域医療連携

座長：堀江義則（山王メディカルセンター）

S16-1 アルコール診療における当院での内科、精神科連携と問題点
菊池真大
東京医療センター・内科

S16-2 総合病院勤務の精神科医（心療内科医）からみたアルコール連携医療～一歩先に進むための提言
小松知己
沖縄協同病院・心療内科

S16-3 総合病院勤務医からみたアルコール依存症治療～これまでの取り組みとこれからの課題～
白坂智彦
手稲溪仁会病院・精神科

S16-4 精神科診療所で普遍的にアルコール依存症を診るための課題～トリートメントギャップをなくすために～
辻本土郎
ひがし布施クリニック

S16-5 アルコール地域医療連携を考える

吉川晴子

市立四日市病院

15:10~17:10 シンポジウム 17 S17**いったい回復って何だろう？～回復の多様性～**

座長：田辺 等（北海道立精神保健福祉 センター）

芦沢 健（千歳病院）

S17-1 アルコール依存症の治療予後と回復

松下幸生

久里浜医療センター

S17-2 薬物依存症患者の回復に向けて一援助者は何を指すべきか？

小林桜児

神奈川県立精神医療センター

S17-3 いったい回復って何だろう？・・・回復の多様性

白坂知信

石橋病院

S17-4 「個人の回復」から「社会の回復」へ

大嶋栄子

NPO 法人リカバリー

上岡陽江

ダルク女性ハウス

平成 28 年 10 月 8 日（土） 第 4 会場（福寿）**9:40~11:40 シンポジウム 18 S18****ハーム・リダクションの展開を考える：医療、回復支援、法的処遇の視点でディベート**

座長：森田展章（筑波大学医学医療系ヒューマンケア科学専攻社会精神保健学）

嶋根卓也（国立精神・神経医療研究センター）

S18-1 ハーム・リダクションをめぐる国際的な動向と日本での展開を考える

古藤吾郎

日本薬物政策アドボカシーネットワーク/アジア太平洋地域アディクション研究所

上岡陽江

ダルク女性ハウス

S18-2 ハーム・リダクションの展開を考える～当事者からみたハーム・リダクション

秋元恵一郎

東京ダルク

S18-3 日本のアディクション特に薬物問題に対するハーム・リダクションの手法の導入における論点

森田展彰

筑波大学医学医療系ヒューマンケア科学専攻社会精神保健学

S18-4 刑事司法的観点から見たハーム・リダクションの長所と課題

染田 恵

法務省法務総合研究所研究部

S18-5 生きてさえいれば回復につながる

山田幸子

佐賀セレニティクリニック

13:00~15:00 シンポジウム 19 S19**未成年者・若年成人の飲酒のリスクと予防**

座長：松下幸生（国立病院機構久里浜医療センター）

鈴木健二（鈴木メンタルクリニック）

S19-1 若年成人の飲酒とアルコール関連問題のリスクについて

松下幸生

国立病院機構久里浜医療センター

S19-2 未成年者の飲酒問題の10年間の追跡調査結果

鈴木健二

鈴木メンタルクリニック

S19-3 ライフスキル形成を基礎とする飲酒、喫煙、薬物乱用防止教育

川畑徹朗

神戸大学大学院 人間発達環境学研究科

S19-4 若年者の飲酒と各種飲酒問題のリスクファクター

真栄里仁

国立病院機構久里浜医療センター

15:10~17:10 シンポジウム 20 S20**ドラマセラピーによる依存症女性たちのためのチーム医療**

座長：尾上明代（立命館大学）

後藤 恵（成増厚生病院）

S20-1 ドラマセラピーによる依存症女性のためのチーム治療

尾上明代

立命館大学

S20-2 ドラマセラピーによる依存症女性たちのためのチーム医療

大矢照美

都立松沢病院

S20-3 回復支援施設職員から見た女性依存症者に対するドラマセラピーの効果

枇杷優子

NPO 法人ジャパンマック

S20-4 依存症からの回復にもたらすドラマセラピーの効果～回復支援施設の現場から～

堂迫祥子

NPO 法人ジャパンマック

S20-5 体験を通して感じるドラマセラピーの効果

久保井尚美

RDP 横浜

S20-6 ドラマセラピーとの出会い～体験から見える効果～

中山千尋

NPO 法人ジャパンマック

S20-7 ドラマセラピー

後藤 恵

成増厚生病院

平成 28 年 10 月 8 日 (土) 第 5 会場 (401)

9:40～10:40 一般演題 (口演) 5 O-5

精神医学・症例

座長：宮田久嗣 (慈恵会医科大学)

米田 博 (大阪医科大学神経精神医学教室)

O-5-1 F19.7 多剤使用及びその他の精神作用物質使用による精神及び行動の障害、左眼失明の一症例石川文之進¹⁾、村木純子²⁾、石川叔郎¹⁾、石川史人¹⁾、石川経子¹⁾、中村正明¹⁾、齋藤陽一³⁾、植木 彰⁴⁾

1) 報徳会 宇都宮病院

2) 聖純根会 村木医院

3) 脳波計量解析研究所

4) のぞみ会 のぞみ病院

O-5-2 総合病院で入退院を繰り返すアルコール依存症患者と向き合っ倉田 勉¹⁾、多田素久¹⁾、中村五百香¹⁾、塩田優太¹⁾、柳井貴志¹⁾、伊藤久美子¹⁾、鈴木 均¹⁾、菊池周一¹⁾、矢田洋三¹⁾、吉野晃平²⁾

1) 社会医療法人社団さつき会 袖ヶ浦さつき台病院

2) 帝京大学ちば総合医療センター

0-5-3 現実逃避型のアルコール依存症患者に対する森田療法的アプローチ海野 順^{1,2)}

- 1) 聖和錦秀会 阪和いずみ病院
- 2) 京都森田療法研究所

0-5-4 食行動異常、衝動行為を認めたアルコール依存、後に前頭側頭型認知症とした一症例—認知機能からみた分析—新田千枝¹⁾、安野 勇²⁾

- 1) 筑波大学人間総合科学研究科 社会精神保健学分野
- 2) 秋元病院

0-5-5 アンフェタミン、アルコール使用による精神および行動の障害の一症例鈴木三夫¹⁾、石川玄子¹⁾、石川雅枝¹⁾、村木純子²⁾、中村正明¹⁾、齋藤陽一³⁾、植木 彰⁴⁾、石川文之進¹⁾

- 1) 報徳会 宇都宮病院
- 2) 聖純根会 村木医院
- 3) 脳波計量解析研究所
- 4) のぞみ会 のぞみ病院

10:40~11:40 一般演題 (口演) 6 0-6**合併症・疫学**

座長：鳥帽子田彰（広島大学大学院公衆衛生学研究室）
岡村智教（慶應義塾大学衛生学医学部公衆衛生学）

0-6-1 依存症関連問題へのアウトリーチ支援の有効性～多摩総合精神保健福祉センター 5 年間の実践から梅野 充¹⁾、小澤壽江¹⁾、渡邊敦子²⁾、梶 達彦¹⁾、源田圭子³⁾、野崎伸次¹⁾、熊谷直樹¹⁾

- 1) 多摩総合精神保健福祉センター
- 2) 共立女子大学
- 3) 東京都立精神保健福祉センター

0-6-2 中小企業における AUDIT 得点と生活習慣病の有病率福田貴博¹⁾、新垣清乃²⁾、新城真紀²⁾

- 1) 国立病院機構琉球病院
- 2) 全国健康保険協会沖縄支部

0-6-3 アルコール依存症患者に合併するうつ症状の検討

河端 崇

医療法人優なぎ会 雁の巣病院

O-6-4 薬物依存症に合併する衝動コントロール障害に関する嗜癮行動についての研究～全国ダルク調査より～

高原恵子¹⁾、梅野 充²⁾、幸田 実³⁾、秋元恵一郎³⁾、南 保輔⁴⁾、阿部幸枝²⁾、源田圭子⁵⁾、伊波真理雄⁶⁾、谷部陽子⁷⁾、森田展彰⁸⁾

- 1) メンタルオフィス亀戸
- 2) 多摩総合精神保健福祉センター
- 3) 特定非営利活動法人東京ダルク
- 4) 成城大学文芸学部
- 5) 東京都立精神保健福祉センター
- 6) 医療法人ヒブノシス雷門メンタルクリニック
- 7) 世田谷区砧総合支所
- 8) 筑波大学医学医療系

O-6-5 慢性腰痛を訴えるアルコール多飲者は術後認知障害を呈する頻度が高い

工藤 明
弘前市立病院 麻酔科

13:10～14:10 一般演題 (口演) 7 O-7

嗜癮調査研究

座長：若林一郎（兵庫医科大学環境予防医学）
堀井茂男（公益財団法人慈主会 慈主病院）

O-7-1 アルコール依存症に対する認識と治療方針に関する国内調査

田口有里恵、竹井謙之、笹井涼子、Susana Murteira
国際医療福祉大学大学院 医療福祉学研究科

O-7-2 飲酒とライフスタイルとの関連における調整変数としての性別

三好美浩¹⁾、勝野真吾²⁾、西岡伸紀³⁾、和田 清⁴⁾

- 1) 岐阜大学医学部
- 2) 岐阜薬科大学名誉教授
- 3) 兵庫教育大学大学院学校教育研究科
- 4) 埼玉県立精神医療センター依存症治療研究部

O-7-3 飲酒習慣を有する健常日本人男性を対象とした飲酒行動とALDH2遺伝子型の探索的研究

鎌田陽子¹⁾、関口則子²⁾、村田成則³⁾、木下健司³⁾、北川義徳¹⁾

- 1) サントリービジネスエキスパート株式会社 安全性科学センター
- 2) サントリービジネスエキスパート株式会社 HEセンター
- 3) 武庫川女子大学 薬学部 ゲノム機能解析学講座

O-7-4 大学生におけるアルコールパッチテストの反応性が今後の飲酒行動に及ぼす影響の検討

田村京子¹⁾、菅澤威仁²⁾、丹波泰子¹⁾、清水智美³⁾、大塚裕子¹⁾、牛山蓮美¹⁾、大徳紘也¹⁾、山崎まどか¹⁾、太田 真¹⁾

- 1) 大東文化大学 スポーツ・健康科学部
- 2) 筑波大学 医学医療系
- 3) 桐蔭横浜大学 医用工学部

O-7-5 ギャンブル障害のある人の家族の実態とニーズ森田展彰¹⁾、新井清美²⁾、田中紀子³⁾、川口由起子⁴⁾

- 1) 筑波大学
- 2) 首都大学東京
- 3) ギャンブル依存症問題を考える会
- 4) 植草学園大学

平成 28 年 10 月 8 日 (土) 第 7 会場 (研修室)

10:00~17:00 ワークショップ 4 WS4

臨床心理士のための依存症ワークショップ ～アディクション臨床における臨床心理士の役割とは何か～

WS4-1 アディクション臨床における臨床心理士の役割

コーディネーター・講師 1

信田さよ子

原宿カウンセリングセンター

WS4-2 動機受け面接法の基礎理論と実践

講師 2

高橋郁絵

原宿カウンセリングセンター

WS4 トークセッション

薬物依存とゲーム・ネット依存—ハーム・リダクションの視点から

古藤吾郎

特定非営利活動法人アジア太平洋地域アディクション研究所

三原聡子

独立行政法人国立病院機構久里浜医療センター

平成 28 年 10 月 8 日 (土) 第 8 会場 (桃源)

10:00~11:00 教育講演 9 EL9

薬物依存症総論

座長：合川勇三（埼玉県立精神医療センター）

EL9

薬物の乱用・依存状況と薬物の乱用・依存・中毒の理解

和田 清

埼玉県立精神医療センター 依存症治療研究部

11:00～12:00 教育講演 10 EL10

薬物依存症の治療～SMARPP を中心に～

座長：成瀬暢也（埼玉県立精神医療センター）

EL10

SMARPP の理念と課題—プログラムの「学習」ではなく、支援ネットワークの交差点を目指して

松本俊彦

国立精神・神経医療研究センター 精神保健研究所 薬物依存研究部

13:00～16:00 ワークショップ 5 WS5

依存症の家族支援ワークショップ～CRAFT を中心に～

WS5-1

講義、ファシリテーター

長 徹二

三重県立こころの医療センター

WS5-2

講義、ファシリテーター

田中増郎

高嶺病院

WS5-3

ファシリテーター 1

今井航平

群馬県立精神医療センター

WS5-4

ファシリテーター 2

奥平富貴子

東北会病院

WS5-5

ファシリテーター 3

中田千尋

井之頭病院

WS5-6

ファシリテーター 4

岩原千絵

久里浜医療センター

WS5-7

ファシリテーター 5

別所和典

湊川病院

WS5-8

ファシリテーター 6

福田貴博

国立病院機構琉球病院

- WS5-9** ファシリテーター 7
射場亜希子
兵庫県立光風病院
- WS5-10** ファシリテーター 8
中野温子
岡山県精神科医療センター
- WS5-11** ファシリテーター 9
江上剛史
三重県立こころの医療センター
- WS5-12** ファシリテーター 10
濱本妙子
三重県立こころの医療センター
- WS5-13** ファシリテーター 11
当事者・家族

平成 28 年 10 月 8 日 (土) 第 9 会場 (松・桜)

9:40~10:40 一般演題 (口演) 8 O-8

治療・回復

座長：白坂知信 (特定医療法人北仁会石橋病院)
近藤あゆみ (国立研究開発法人 国立精神・神経医療研究センター)

- O-8-1** 危険ドラッグ乱用者に対する回復支援～全国ダルクスタッフ・利用者調査から～
梅野 充¹⁾、南 保輔²⁾、森田展彰³⁾、高原恵子⁴⁾、幸田 実⁵⁾、秋元恵一郎⁵⁾、阿部幸枝¹⁾、
谷部陽子⁶⁾、源田圭子⁷⁾、伊波真理雄⁸⁾
- 1) 多摩総合精神保健福祉センター
 - 2) 成城大学文芸学部
 - 3) 筑波大学医学医療系
 - 4) メンタルオフィス亀戸
 - 5) 東京ダルク
 - 6) 世田谷区砦支所
 - 7) 都立精神保健福祉センター
 - 8) 医療法人社団ヒプノシス雷門メンタルクリニック

0-8-2 女性にとっての依存症からの回復とは？～全国ダルク関連施設調査から

源田圭子^{1,2)}、梅野 充²⁾、幸田 実³⁾、秋元恵一郎³⁾、南 保輔⁴⁾、阿部幸枝²⁾、高原恵子⁵⁾、伊波真理雄⁶⁾、谷部陽子⁷⁾、森田展彰⁸⁾

- 1) 都立精神保健福祉センター
- 2) 多摩総合精神保健福祉センター
- 3) 特定非営利活動法人東京ダルク
- 4) 成城大学文芸学部
- 5) メンタルオフィス亀戸
- 6) 医療法人社団ヒブノシス雷門メンタルクリニック
- 7) 世田谷区砧総合支所
- 8) 筑波大学医学医療系

0-8-3 30年に亘る依存症地域医療の経験から～治療の転換期及び発展期に感じること

利田周大、八木眞佐彦、秦 孝憲
医療法人社団利田会周愛利田クリニック

0-8-4 日本型治療共同体モデルとしてのエンカウンター・グループの効果とその要因について

引土絵未^{1,2)}、岡崎重人³⁾、加藤 隆⁴⁾、山本 大⁵⁾、山崎明義⁶⁾、松本俊彦¹⁾

- 1) 国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所
- 2) 日本学術振興会特別研究員 RPD
- 3) NPO 法人川崎ダルク支援会
- 4) NPO 法人八王子ダルク
- 5) 日本ダルクアウェイクニングハウス
- 6) 特定非営利活動法人東京ダルク

0-8-5 依存症の認知行動療法のグループにおける治療要因の測定結果からの考察

近藤千春¹⁾、藤城 聡²⁾、松本俊彦³⁾

- 1) 藤田保健衛生大学 医療科学部 看護学科
- 2) 愛知県精神保健福祉センター
- 3) 国立研究開発法人 国立精神・神経医療研究センター 精神保健研究所 薬物依存研究部

10:40～11:40 一般演題（口演）9 0-9

行為嗜癖・心理

座長：廣中直行（LSI メディエンス）
田中増郎（高嶺病院）

0-9-1 インターネット・ゲーム障害地域ケアことはじめ

利田周大、八木眞佐彦、秦 孝憲
医療法人社団利田会周愛利田クリニック

0-9-2 ギャンブラー問題を持つ者が電話相談に至る要因の検討ーパチンコ・パチスロ問題の電話相談からの分析ー

新井清美¹⁾、森田展彰²⁾、内藤 献³⁾、杉山大三郎³⁾、西村直之³⁾

- 1) 首都大学東京 健康福祉学部 看護学科
- 2) 筑波大学 医学医療系
- 3) 特定非営利活動法人ばちんこ依存問題相談機関 リカバリーサポート・ネットワーク

0-9-3 依存症者の小児期逆境体験を分類する試み

板橋登子、小林桜児、黒澤文貴、堀内恵美子、中村久美子、堀 幸子、大曾根しのぶ、井上恭子、楠山さなみ

神奈川県立精神医療センター

0-9-4 「ネット依存」概念：KJ法による既存尺度項目の図式化から

高橋伸彰¹⁾、木戸盛年²⁾、野田龍也³⁾

- 1) 関西学院大学
- 2) 大阪商業大学
- 3) 奈良県立医科大学

0-9-5 再発にかかわる環境刺激の関与に関する研究：二次性強化効果の動物モデルを用いて

宮田久嗣¹⁾、太田純平²⁾、澤 幸祐³⁾、高橋伸彰³⁾、廣中直行⁴⁾

- 1) 東京慈恵会医科大学精神医学講座
- 2) 専修大学人間科学部
- 3) 関西学院大学心理科学研究室
- 4) 株式会社 LSI メディエンス薬理研究部

13:10~14:10 一般演題（口演）10 0-10

回復・矯正

座長：廣 尚典（産業医科大学産業生態科学研究所精神保健学）

羽竹勝彦（奈良県立医科大学法医学）

0-10-1 更生保護施設における重点的な薬物処遇の取り組み

井ノ口恵子^{1,2)}、井上恭子^{1,3)}、小林桜児³⁾

- 1) 更生保護法人 まこと寮
- 2) 横浜国立大学大学院医学研究科看護学専攻精神看護学分野
- 3) 独立行政法人神奈川県立病院機構神奈川県立精神医療センター

0-10-2 薬物依存症からの回復のために 自助グループ参加は断薬継続に必須であるかについての考察

黒澤文貴¹⁾、小林桜児¹⁾、吉裕尚彦¹⁾、福生泰久¹⁾、寺山 圭¹⁾、川副泰成²⁾

- 1) 神奈川県立精神医療センター
- 2) 旭中央病院

0-10-3 日本の刑事施設における薬物依存離脱指導の評価方法についての文献レビュー

大曲めぐみ、嶋根卓也、松本俊彦

国立研究開発法人 国立精神・神経医療研究センター 精神保健研究所 薬物依存研究部

0-10-4 回復支援の立場からみた一部執行猶予制度～全国ダルク調査から～

秋元恵一郎¹⁾、森田展彰²⁾、南 保輔³⁾、梅野 充⁶⁾、阿部幸枝⁶⁾、高原恵子⁴⁾、源田圭子⁵⁾、高橋百合子⁶⁾、谷部陽子⁷⁾、幸田 実¹⁾

- 1) 特定非営利活動法人東京ダルク
- 2) 筑波大学医学医療系
- 3) 成城大学文芸学部
- 4) メンタルオフィス亀戸
- 5) 東京都立精神保健福祉センター
- 6) 多摩総合精神保健福祉センター
- 7) 世田谷区砧総合支所

O-10-5

総合支援法のもとの薬物依存症回復支援施設～全国ダルク関連施設調査から

阿部幸枝¹⁾、梅野 充¹⁾、森田展彰²⁾、秋元恵一郎³⁾、幸田 実³⁾、加藤 隆⁴⁾、高原恵子⁵⁾、南 保輔⁶⁾、源田圭子⁹⁾、谷部陽子⁷⁾

- 1) 多摩総合精神保健福祉センター
- 2) 筑波大学医学医療系
- 3) 特定非営利活動法人 東京ダルク
- 4) 特定非営利活動法人 八王子ダルク
- 5) メンタルオフィス亀戸
- 6) 成城大学文芸学部
- 7) 世田谷区砧総合支所
- 8) 医療法人社団 ヒプノシス 雷門メンタルクリニック
- 9) 東京都立精神保健福祉センター

平成 28 年 10 月 8 日 (土) ポスター会場 (大ホールロビー)

15:30～16:00 一般演題 (ポスター) 4 P-4

ハーム・リダクション

座長：松本博志 (大阪大学大学院医学系研究科・医学部法医学教室)

P-4-1

オランダにおけるハーム・リダクション視察報告 (1) 医療的支援の観点から

郡 健太¹⁾、高野 歩²⁾、千葉一輝³⁾

- 1) 東京医科歯科大学医学部医学科
- 2) 東京大学大学院医学系研究科 精神看護学分野
- 3) 東京大学医学系研究科 高齢者在宅長期ケア看護学/緩和ケア看護学教室

P-4-2

オランダにおけるハーム・リダクションの視察報告 (2) 地域支援の観点から

千葉一輝¹⁾、高野 歩²⁾、郡 健太³⁾

- 1) 東京大学医学系研究科 高齢者在宅長期ケア看護学/緩和ケア看護学教室
- 2) 東京大学大学院医学系研究科 精神看護学分野
- 3) 東京医科歯科大学医学部医学科

P-4-3

NA と刑事施設の関係に関する考察

牛木潤子

福島刑務所福島刑務支所

P-4-4

Reduced exposure to harmful and potentially harmful constituents after five days of use of the tobacco heating system 2.2 : a comparison with continued combustible cigarette use or smoking abstinence

N. Sierro¹⁾、C. Haziza¹⁾、G. de La Bourdonnaye¹⁾、G. Baker¹⁾、M. Benzimra¹⁾、J. Ancerewicz¹⁾、P. Picavet¹⁾、H. Miura²⁾、F. Lüdicke¹⁾

- 1) Philip Morris International R&D, Neuchatel, Switzerland
- 2) Higashi Shinjuku Clinic, Tokyo, Japan

P-4-5 Reduced exposure to harmful and potentially harmful constituents after 90 days of use of the tobacco heating system 2.2 in Japan : a comparison with continued combustible cigarette use or smoking abstinence

C. Haziza¹⁾、N. Lama¹⁾、A. Donelli¹⁾、P. Picavet¹⁾、G. Baker¹⁾、J. Ancerewicz¹⁾、
M. Benzimra¹⁾、M. Franzon¹⁾、Masahiro Endo²⁾、F. Lüdicke¹⁾

- 1) Philip Morris International R&D, Neuchatel, Switzerland
- 2) Osaki Hospital Tokyo Heart Center, Tokyo, Japan

16:00~16:30 一般演題 (ポスター) 5 P-5

神経精神薬理

座長：廣中直行 (LSI メディエンス)

P-5-1 ニコチン摂取が前頭皮質の機能を抑制する：胎生期ニコチン暴露の影響

間宮隆吉¹⁾、棚瀬将太¹⁾、羽田麻希¹⁾、竹内詩乃¹⁾、青山雄紀¹⁾、衣斐大祐¹⁾、平松正行^{1,2)}、
鍋島俊隆^{1,2,3)}

- 1) 名城大学薬学部薬品作用学
- 2) NPO 医薬品適正使用推進機構 (NPO J-DO)
- 3) 藤田保健衛生大学大学院 医療科学専攻 先進診断システム探索講座

P-5-2 血小板機能へのメタノールおよび蟻酸の作用

江川可純、丸茂幹雄、若林一郎
兵庫医科大学 環境予防医学講座

P-5-3 食物繊維・増粘多糖類の血中アルコール濃度低下作用はアミノ酸により増強される

大嶋俊二、椎谷幸恵、徳丸良美、中村康則
アサヒグループホールディングス株式会社

P-5-4 Pharmacokinetics of nicotine and subjective effects following the single use of a non-menthol and menthol version of tobacco heating system 2.2 in two studies in Japan : a comparison with single use of a combustible cigarette and nicotine gum

P. Picavet¹⁾、C. Haziza¹⁾、G. Baker¹⁾、N. Lama¹⁾、M. Benzimra¹⁾、J. Ancerewicz¹⁾、
F. Nobuoka²⁾、M. Sugimoto³⁾、F. Lüdicke¹⁾

- 1) Philip Morris International, Quai Jeanrenaud 5, Neuchatel, Switzerland
- 2) Ageo Medical Clinic, Haraichi, Ageo City Saitama, Japan
- 3) Koganeibashi Sakura Clinic, Koganei-shi, Tokyo, Japan

16:30~17:00 一般演題 (ポスター) 6 P-6

分子生物・行動薬理

座長：新田淳美 (富山大学大学院医学薬学研究部 (薬学)・薬物治療学研究室)

P-6-1 アルコールが細胞外マトリックス分解酵素 MMP-9 遺伝子の発現と動脈硬化巣脆弱化の促進へもたらす影響

劉 金耀、白鳥彩子、藤宮龍也
山口大学大学院医学系研究科 法医学講座

P-6-2 アルコール依存時および離脱時における脳内 microRNA 発現変動の部位特異性

水尾圭祐、村上里奈、岡崎俊一郎、渡邊 智

札幌医科大学 法医学講座

P-6-3 マウス側坐核における Piccolo ノックダウンのドパミン遊離とメタンフェタミン誘発行動変化抑制作用宇野恭介¹⁾、葛 斌¹⁾、村松慎一²⁾、日比陽子³⁾、鍋島俊隆⁴⁾、宮本嘉明¹⁾、新田淳美¹⁾

1) 富山大学大学院医学薬学研究部・薬物治療学研究室

2) 自治医科大学・神経内科

3) 名古屋大学大学院医学系研究科・医療薬学・附属病院薬剤部

4) 藤田保健衛生大学・医療科学、藍野大学

P-6-4 コカイン依存形成における背外側被蓋核コリン作動性ニューロンの可塑性と内側前頭前野の NO の役割金田勝幸¹⁾、上居寛典^{1,2)}、田岡直史²⁾、和田進太郎¹⁾、南 雅文²⁾

1) 金沢大学医薬保健研究域薬学系 薬理学研究室

2) 北海道大学大学院 薬学研究院 薬理学研究室

第 51 回日本アルコール・アディクション医学会学術総会

企業共催ランチョンセミナー
【プログラム】

平成 28 年 10 月 7 日 (金) 第 2 会場 (瑞雲)

12:30~13:30 ランチョンセミナー 1 LS1

座長：廣中直行 (LSI メディエンス薬理研究部)

LS1 アルコールとうつ、自殺

松本俊彦

国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所 薬物依存研究部

共催：Meiji Seika ファルマ株式会社

ラン
チ
ョ
ン
セ
ミ
ナ
ー

平成 28 年 10 月 7 日 (金) 第 3 会場 (平安)

12:30~13:30 ランチョンセミナー 2 LS2

座長：宮田久嗣 (東京慈恵会医科大学 精神医学講座)

LS2 心と体のうつ病治療

内田 直

早稲田大学スポーツ科学学術院

共催：日本イーライリリー株式会社

平成 28 年 10 月 7 日 (金) 第 4 会場 (福寿)

12:30~13:30 ランチョンセミナー 3 LS3

座長：齋藤利和 (医療法人 北仁会 幹メンタルクリニック)

LS3 統合失調症に共存する依存症状への薬物療法

大沼 徹

順天堂大学大学院医学研究科 精神・行動科学

共催：大日本住友製薬株式会社

平成 28 年 10 月 8 日 (土) 第 2 会場 (瑞雲)

11:50~12:50 ランチョンセミナー 4 LS4

座長：池田和隆 (東京都医学総合研究所・依存性薬物プロジェクト)

LS4 IQOS (アイコス) の科学的評価

G. Baker, P. Picavet

Philip Morris Products S.A., Switzerland

共催：フィリップモリスインターナショナル/フィリップモリスジャパン合同会社

平成 28 年 10 月 8 日 (土) 第 3 会場 (平安)

11:50~12:50 ランチョンセミナー 5 LS5

座長：岩下 覚 (社会福祉法人 桜ヶ丘社会事業協会 桜ヶ丘記念病院)

LS5 精神病薬ゼプリオン[®]の Effectiveness の検討

福島 端

医療法人誠心会 あさひの丘病院

共催：ヤンセンファーマ株式会社

平成 28 年 10 月 8 日 (土) 第 4 会場 (福寿)

11:50~12:50 ランチョンセミナー 6 LS6

座長：南 雅之 (船橋北病院)

LS6 依存症をめぐる最近の話題

樋口 蓮

久里浜医療センター

共催：日本新薬株式会社

第 51 回日本アルコール・アディクション医学会学術総会

柳田知司先生メモリアルシンポジウム
【プログラム】

柳田知司先生メモリアルシンポジウム：先生を偲んで

10月8日（金）16：20～18：00

第1会場（タワーホール船堀 5階 大ホール）



座長：高田孝二

1. 柳田先生のご足跡 帝京大学文学部 高田孝二
2. 基礎研究者の立場から 星薬科大学薬物依存研究室 鈴木 勉
3. 臨床医の立場から かとうメンタルクリニック 加藤 信
4. 国際的活動 Jack E. Henningfield
Pinney Associates, and The Johns Hopkins University School of Medicine

柳田知司先生の学会・社会活動：

- ・ アジアトキシコロジー学会初代理事長
- ・ 日本臨床薬理学会、日本神経精神薬理学会、日本トキシコロジー学会、日本アルコール・薬物医学会等の理事および年会長
- ・ 日本薬理学会の理事、第3回国際トキシコロジー学会プログラム委員長
- ・ WHO 薬物依存アドバイザーパネル委員、厚生省* 国際麻薬セミナー運営委員、日本QA 研究会会長、厚生省* ICH 検討班安全性薬理試験グループ委員、厚生省* 中央薬事審議会委員（依存性調査会）、厚生労働省・国際厚生事業団共催「海外麻薬行政官研修制度運営委員会」委員等。
- ・ このようなアルコール・薬物依存領域の多大な功績により、2010年10月に薬事功労者厚生労働大臣表彰を受けられました。また、日本アルコール・アディクション医学学会ではアルコール・薬物依存領域の日本における最高位賞として「柳田知司賞」を創設いたしました。

*現 厚生労働省